

## 地域住民らと土砂災害を語る



近年、さまざまな自然災害による土砂災害が多発しているのを受けて、地域住民と一緒に土砂災害について勉強し、地域の安心・安全について考える「祖谷川の土砂災害を語る」が3月15日、東祖谷郷土文化保存伝習施設で行われました。四国山地砂防事務所長からは、土砂災害の現状と対策についての説明などがあり、その後地域との語りでは地域住民より「台風などで避難場所へ避難してもその後の情報がない。避難場所にテレビやラジオがほしい」などの具体的な要望などが出されました。

## 「志高文芸」が最優秀を受賞



今年で5回目を迎える富士正晴全国高等学校文芸誌賞の授賞式が3月14日、ホテル大歩危峡まんなかで行われ、受賞者に賞状などが贈られました。同賞は三好市出身の小説家富士正晴氏の功績をたたえとともに、高校生の文芸創作活動への関心を高めようと創設されたものです。今回は岩手県立盛岡第四高等学校の生徒が制作した「志高文芸」が最優秀賞を受賞。優秀賞には、札幌琴似工業高校「風花舞」、盛岡第三高校「黎」、小牛田農林高校「雪月雷花」が選ばれました。

## 西井川林業クラブ大臣賞受賞



西井川林業クラブが3月3日、平成26年度全国林業グループコンクールにおいて農林水産大臣賞を受賞しました。同クラブは「山を緑に・田に水を」を合言葉に昭和31年に発足して以来、会員は親から子へと受け継がれ、地域林業の活動を続けています。今回の受賞は、小中学生などを対象とした「林業体験型修学旅行」の受け入れや学生を対象とした木材の伐採・搬出を体験する「本物の林業体験コース」の創設など、次世代の森林・林業の応援団となる取り組みが評価されたものです。

# まちかどフォトニュース

おもしろいこと、珍しいもの、どんなことでもいいので耳よりな情報をお知らせください。  
三好市役所 秘書人事課 ☎ 72-7646



## 710点の頂点は「花盛る新緑の祖谷」

平成26年度に募集していた千年のかくれんぼフォトコンテストの表彰式が3月22日、箸蔵寺で行われました。市内外から710点の応募があり、最優秀賞に楠本靖さん（藍住町）の「花盛る新緑の祖谷」が選ばれたほか、23点の写真が入賞しました。最優秀賞に選ばれた楠本さんは、2年連続の受賞となりました。

入賞写真は観光パンフレットなどに活用されるほか、4月30日まで池田町マチたばこ資料館に、5月1日から5月31日まで松茂町にある阿波おどり空港に展示される予定です。

## 水に親しむ水辺の楽校完成



川崎の祖谷川沿いに整備された「水辺の楽校」の完成記念式典が3月29日、川崎小学校で開かれ、関係者や住民ら150名が参加しました。式典後、現地に移動しテープカット。水辺の楽校は、多目的広場や遊歩道などが整備されています。川崎地区の周辺一帯は、地すべり防止区域となっており、祖谷川の川床・護岸工と合わせて実施され、地域の方の不安を解消するとともに水に親しむ場所となりました。今後は、自然観察や環境学習などの自然体験活動の場に活用していきます。

## 徳大がサテライトオフィスを開設



徳島大学が県西部初となるサテライトオフィス「にしあわ学舎」を3月26日、井川総合支所内に開設し、記念式典が開かれ、関係者ら100名が出席しました。にしあわ学舎は、旧井川町議会の議事室と委員会室だった3階の2室を事務室と講義室として使用し、徳島大学地域創生センターの助教授と地元雇用の地域コーディネーターが勤務します。今後、2市2町（三好市・美馬市・つるぎ町・東みよし町）と連携し、地域のリーダーとなる人材の育成に取り組むほか、公開講座の開催などに取り組みます。

## とくしま出版文化賞を受賞



このたび、第39回とくしま出版文化賞（徳島県文化振興財団主催）に、小歩危ダム阻止闘争と吉野川の濁り問題編集委員会の「小歩危ダム阻止闘争と吉野川の濁り問題」が選ばれました。この賞は、昨年中に発行された図書の中から徳島県内の出版文化の向上発展に貢献した出版物を顕彰するものです。「小歩危ダム阻止闘争と吉野川の濁り問題」は小歩危ダムの建設計画をめぐる住民の反対運動が世論を喚起し、ダム建設を中止に追い込んだ経緯と吉野川水系の濁水解消に向けた取り組みについてまとめられたものです。

## 地域の創生を考える講演会を開催

みよし地域商工団体連合会・経済懇談会が3月16日、池田総合体育館で開催されました。元総務大臣で東京大学公共政策大学院客員教授の増田寛也氏による「みよし地域の創生を考える」と題した講演では、詳しい統計データをもとに、地方の人口減少の要因として20歳から39歳の若年女性の減少と東京圏への若者の集中の2つを挙げ、「全国の自治体が危機意識を持って対策に取り組んでいる。若い世代、女性の声を重視し、よい意味での自治体間競争が必要だ」と述べ、約100人が熱心に耳を傾けました。



## 自分だけのオリジナルコップが完成

にし阿波の魅力ある資源を生かした体験プログラム「にし阿波と恋する時間〜あわこい〜」が2月1日から3月15日まで、2市2町（三好市・美馬市・つるぎ町・東みよし町）で開催され、99個の多彩なプログラムが行われました。3月14日には、世界に1つだけのマイコーヒーカップ作りが池田町にあるレストラン太陽がいっぱいで開催されました。午前と午後に分かれて2回行われ、子どもから大人まで29名が参加しました。参加者は、ろくろを回すを手伝ってもらいながら納得がいくまで何度もやり直し、オリジナルのコップや植木鉢などを作りました。